

Save foreign workers

宮城県仙台第三高等学校 48 班

私達は先行研究で日本における外国人労働者の待遇が良くないということを知り、原因を調べる必要があると思い、他国との待遇の比較や三高でのアンケートなどを通して、追求していった。

その中で、ドイツと日本では外国人労働者に待遇の質の差があり、また、三高で意識調査をしていった結果、半分以上の生徒が外国人に対して、好感的な感情を抱いていなかった。そこで、理解したのは、日本には外国人労働者に対する整備が整っていないことと、日本人は知らないことに目を向けられない傾向があると知った。

キーワード：外国人労働者、知ること、ドイツ、労働環境、言語の壁

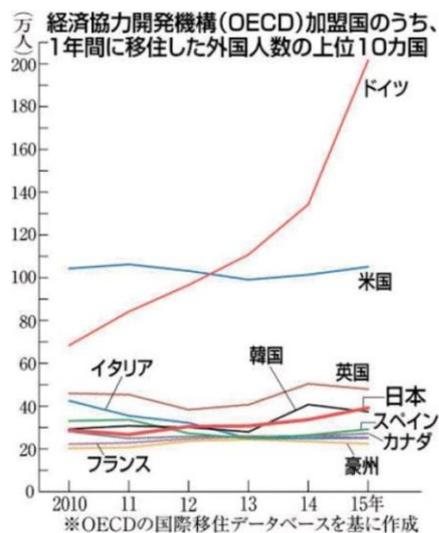
I. はじめに

日本では、グローバル化の進行が続いており、外国人を日本でもよくみかけるようになってきた。そんな中で外国人が日本の労働者として働く際に様々な問題点が見つかっている。言語の壁、収入の不平等、待遇の劣悪さ、などといった問題が大きい。今では、外国人労働者のための無料の相談所や日本語スクールなどのサポートがあるがそれでは賄えきれないほどの問題がたくさんある。そもそも、外国人がそういったサポートを知らないといったケースも少なくないようだ。そこで、私達はそういった問題を解決するために、まずなぜ外国人労働者にとって日本の労働環境が悪いのか、そしてそれをどのようにかいつすれば良いのかを調べることにした。

II. 研究方法

i) 日本と他国との労働環境の違いについて

日本の労働環境の悪さ具合を調べるべく、まず他国との労働制度と比較してみることにした。そこで、注目したのはドイツだ。ドイツは他国と比べても労働環境がよく、何より外国人労働者の受け入りに最も成功していると言われている。

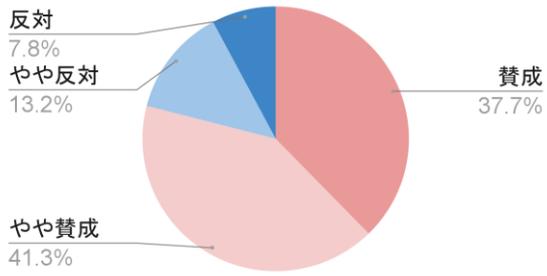


上図のように、一年間に移住した外国人数においてドイツが圧倒的に多いことがわかる。さらに、収入面でも日本における外国人労働者の平均年収は約 240 万円となっているが、ドイツでは約 720 万とドイツと日本での差が大きく現れている。

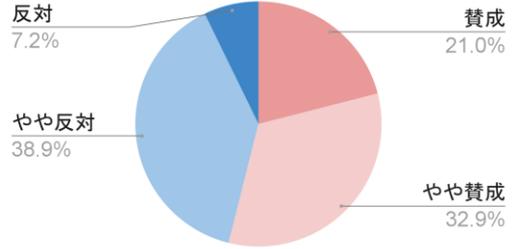
ii) 日本人の意識について

労働環境の劣悪さは制度の問題だけではないと考え、実際に三高の生徒に外国人に対する意識調査をした。

受け入れに賛成か



身近に住むことについて



上図のように、外国人労働者の受け入れに賛成か、身近に住むことについては賛成かというアンケートを取った。

III.探究内容

結果として、I)からは日本とドイツにおける外国人労働者に対する待遇の違いが明らかになった。日本ではより徹底した制度と平等という意識の拡大が必要である。そのためにも、まずは私達のサポートが彼らには必要であり、外国にも称賛されている、日本の思いやりをここで発揮すべきである。また、II)からは日本人の外国人労働者に対する偏見があることが読み取れる。確かに、賛成も多いのは事実だが、その反対も少なくないのも事実だ。身近で見たことといえば、電車の中で、黒人男性が座っている隣には、他の席は埋まっていたのにも関わらず、誰も座らなかつたのである。やはり、日本人はどこか人を偏見で見ってしまう傾向があるようだ。一方、外国人労働者の待遇で成功しているドイツはそもそもの国民性が高いおかげで、他国の人々とも壁を作らず、接している。。こういった、文化はうけついできた長年受け継いできたものなので、全てを改善することは難しいが、気づいた人から行動するという、ドイツの良さを模倣することも彼らにとって利益を与えると思う。

IV.考察

では、いったい私たちはその状況を知って、何をすれば良いのか。例としては、外国人チャリティー運動への募金、日本語学校への協力、選挙への参加が挙げられる。今は、外国人労働者のためにボランティア活動を行なっている団体が多くある。余裕がない人でも、募金をすることで簡単に慈善活動ができる。そして、日本語学校への協力は数は少ないものの、やはり言語の壁というものはコミュニケーションにおいて非常に大きな壁となるので、この協力は彼らにとっても役に立つ。外国人労働者を助けたいと強い意志を持っている人にはぜひ就いてほしい仕事だ。最後に、選挙への参加だ。外国人労働者は日本における参政権を取得していない。つまり、最も重要である彼らの意見が日本の政治に反映されないということだ。彼らにとって、日本の労働環境は不十分であるのにも関わらず、参政権がないとなってしまうと元も子もない。よって、私たちがそういった

現状を変えるためにも参政権を取得している私たちが積極的に政治参加していくことが重要である。また、近年では若者の政治離れが話題となっているため、若者が普段使っている SNS に外国人労働者問題の流通が欠かせない。これらの行動が未来の私たちを変えるかもしれない。

V.まとめ

今回は外国人労働者に関する話題を取り上げたが、挙げた内容の他にもまだまだ問題はあ。最も課題とされている言語の壁以外にも小さな問題を解決できる手段が私たちの身近にある。そういったことを解決するためにまずは知ることから始め、積極的な慈善活動を心がけていきたい。日本人の思いやりの心をぜひ外国の方にも目を向けて、次世代のグローバル化に繋げ、より良い社会にすることが私たちができることである。

参考文献

ドイツ・スウェーデンの外国人政策から何を学ぶか。

<http://www3.keizaireport.com/report.php/RID/383969/>

日本商工会議所 Assist Biz がいこくじん <https://www.icci.or.jp/>

ドイツ・スウェーデンの外国人材政策

<https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/jrireview/pdf/11438.pdf>